

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000415		
法人名	社会福祉法人 志楽園福祉会		
事業所名	グループホーム猿投の楽園		
所在地	愛知県豊田市加納町向井山9-1		
自己評価作成日	令和3年8月10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosoCd=2393000415-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosoCd=2393000415-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年9月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHの運営理念である「個々の思いに寄り添う」に焦点をあて、『聞きます、月間』を行い、入居者様個別に聞き取りを行い、その思いを叶えるお手伝いを行っている。また、口腔ケアにも力を入れ、食後の歯磨きはもちろんのこと、昼食後に職員がお一人ずつチェック・仕上げを行っている。食事中の様子も気にかけて、食べるスピードや噛む回数などから、それぞれの改善点などを職員一同情報を共有しながら行っている。体操や洗濯物たたみの他、畑から収穫した野菜を使って簡単な料理を作ったりしながら入居者様に寄り添い生活を行っている。地域の方との交流では、交流館・施設前の掲示板や自施設でのブログで、日常の生活がわかっていたりいただけるような情報をお伝えしている。また、毎月職員が交代しながら講師となり、認知症ケアの研修も行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に向け、グループホーム理解、認知症理解を発信し、「ホームの立ち位置」を紹介する取り組みは、実を結びつつある。地域のコミュニティーセンターにポスターとチラシを置き、施設前の掲示板やホームのブログではホームの日常を紹介する等、地道な取り組みを継続した成果で、地域では併設の特養等の施設を含め、認知度は高い。  
今年度は何をにおいてもコロナ禍の対応・対策である。職員に体調不良者が出るほど、マスク着用を徹底した弊害で、利用者が職員の顔、職員自身を忘れてしまうという事態に陥り、これはこれで改善が必要になったというエピソードもある。コロナ禍においても、家族の協力を得ながら、楽しみを探し、グループホームらしい日常を継続する、職員のパワーは見事である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに運営理念を掲げ、毎朝の朝礼にて唱和している。「個々の思いに寄り添う」という理念を実現できるよう、『聞きます、月間』を行い、お一人ずつの思いを聞き取り、その思いを実現できるよう支援している。	「個々の思いに寄り添う」というホーム運営理念を掲げ、理念実現に取り組んでいる。毎朝の朝礼で唱和し、意識の共有を図るほか、具体的取り組みとして、「聞きます、月間」を実施、利用者一人ひとりの思いの実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の交流館祭に参加させていただいている。また、職員を通して地域の方に声をかけ、防災訓練への参加の呼びかけ・参加をお願いしている。	コロナ禍で、以前の交流は全て中止になっている。コロナ終息後の、以前のような交流の再開が待たれる。ホームの今までの取り組みが実を結び、交流はなくとも、老人会や地域からはシルバーカーやレク用品の寄付、季節の野菜等が到来している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流館でGHのチラシを掲載したり、施設前の掲示板にGHでの生活の様子がわかるような内容を掲示させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者様や施設の状況をお伝えしている。意見をいただけた場合は施設に反映できるよう努めている。	この1年は6回全てが書面開催となっている。多彩なメンバーで、にぎやかな会議が開催できていただけに、残念な現状である。ホーム運営報告を基に議事録を作成し、意見を募っている。議事録は、メンバーに配布、地域包括支援センターに報告を兼ね、提出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困りごとがある場合などその都度、管理者が行っている。	市の担当部署とは、運営に関する相談・報告を通じ、適切に連携している。指導や助言をホーム運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、研修を行っている。また身体拘束へつながらない適切なケアが行えていけるよう、職員全員が周知できるよう会議や委員会で話し合いの場を設けている。	身体拘束委員会をホームに設置し、3ヶ月毎に委員会を開催している。事例検討を行い、拘束をしない工夫を話し合い、全職員に周知ができるように、会議でも話し合いの機会を作っている。ヒヤリハットの記録からも、拘束につながるものを精査し、適切なホーム支援に反映させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が講習を受け、職員へ周知し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が講習を受け、職員へ周知している。また他の職員も研修を受け、理解を深めている。今年度も家族様の依頼により管理者説明を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様・ご家族様が理解・納得をしていただけるよう、管理者が行っている。利用後に契約内容の理解不十分により苦情があった場合は、改めて説明させていただき、理解・納得をしていただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見箱の設置している。また入居者様やご家族様から意見・要望があれば運営に反映できるように努めている。	コロナ禍以前は年2回の家族会を開催していたが、コロナ禍で中止になっている。現在は、個別で対応し、情報提供・共有に努めている。昨今では、コロナでも利用者が楽しめる備品購入に使用してほしいと、家族から寄付をいただいた事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ間のコミュニケーションをしっかりと、なんでも相談できる関係性を築けるように努めている。また月例会議にて意見や要望を聞く機会を確保し、反映できるよう努めている。	ホーム全体会議を、同じ内容で月2回開催し、必ずどちらかに出席し、全員参加ができるように工夫している。活発な意見交換の場となっており、職員の意見表出の機会となっている。年2回の個別面談を始め、個別のコミュニケーションを随時配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2度、面談・アンケートを通じて行っている。そのほか、管理者から代表者へ運営状況を定期的に報告のうえ、よりよい職場環境へ向け、取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月例研修の他、Web研修や職員が交代で講師になり研修を行っている。常に向上心を持てるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内での夏祭りなどのイベント行事の際は、法人内の施設で助け合いながら、次回や法人内の施設でのイベントに活かせるように話し合い情報を共有している。また、豊田市GH文化会に参加し、同業者との交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者等が生活されている場を訪問し、要望をお聞きしている。入居以降も申し出等あればお聞きのうち、安心を確保できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居後以降も含めて、ご家族様が安心して相談いただけるような関係性を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で入居者様、ご家族様からの要望をうけ、必要とされているサービスを見極めて支援内容に取り込んでいけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活を共にするなかで、顔なじみの関係を築くことで、些細な変化や入居者様の思いに気づけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様それぞれにそれぞれの状況があることを理解したうえで、入居者様・ご家族様がお互いに良好な関係を築けていけるよう努めている。離れていても一緒に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人との馴染みの機会が途切れないよう、手紙のやりとりや面会等の要望には実現できるよう努めている。	家族や親族、友人・知人との関係継続を考え、コロナ禍でも状況を判断し、面会方法(アクリル板使用、リモート等)を工夫している。また、個別の趣味の支援にも力を入れ、大正琴やスポーツ観戦等、一人の時間を楽しむ利用者の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活をする中で、お互いに気持ちよく生活できるよう、職員が間に入りコミュニケーションをとっている。隣ユニットに話をしにいたり、見守りしながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了以降も、必要に応じて相談・支援ができるよう、入居者様・ご家族様との関係性にも努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	『聞きます、月間』に取り組み、個々の思いを少しでも叶えられるよう取り組んでいる。また職員はメモを持ち、思いを書き留められるようにし、記録には青ペンで記入するなどし情報を職員同士で共有している。	利用者担当職員が中心に聞き取りを行っている。「聞きます、月間」の取り組みで、利用者の意向や希望を把握し、実現に努めている。「個々の思いに寄り添う」という理念通りの実践がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの内容を職員で共有している。入居後以降も日ごろの会話の中で生活歴をお聞きし、経過の把握に務めている。また個室には馴染みの物をおいていただくなどし、入居前の生活が少しでも継続できるよう対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から入居者様と関わる中で、徐々に変化する現状を汲み取り、月例会議やGH会議、休憩時間などで職員同士で情報を共有することでケアの統一に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の独りよがりの介護計画にならないように、本人様の思いを反映できるよう聞き取りを行いながら行っている。ご家族様にも相談しながら行っているが、よりよい介護計画が実現できるよう努力していきたい。	昨年度評価の振り返りで、利用者意向重視の介護計画立案について課題を見出していたが、「聞きます、月間」の取組みも功を奏し、利用者の意向や希望実現に向けての介護計画立案を実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様と関わったことや、思いが汲み取れた時には青ペンで記録に残すようにし、それを他の職員がすぐに共有できるように対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	統一する支援がある一方で、その都度日々変化していく入居者様の状況に応じて、職員同士が情報を共有しながら、またご家族様に相談報告しながら柔軟に対応できるように考え努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の馴染みの場所や地元のゆっくりとできる場所をチェックし、安心して出かけられるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設と連携を結んでいる往診医やかかりつけ医に、上申や受診できるよう、入居者様・ご家族様の希望を第一に考え対応している。	ホーム協力医の月2回の訪問診療を支援している。ほかに、月1回の歯科往診もある。特に口腔ケアに力を入れ、健康管理につなげている。専門医やかかりつけ医の受診は原則家族対応をお願いし、家族と情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調の変化に日々注意し、異変があれば管理者・往診医に上申・報告・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は、管理者が医療機関に伺い、担当医師・看護師と情報交換するなど、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	はじめの入居時に、重度化・終末期に向けた方針の説明を行っており、定期的に状態に応じて話し合いのうえ、重度化された場合や終末期についての対応に取り組んでいる。	入居契約時に、ホームの方針を説明している。共同生活が困難になる前に家族と話し合い、併設特養や他施設移行を含め、選択肢のある、本人にとって最善の方法を支援している。施設内の連携が行き届き、本人・家族が安心して棲み替えることができる仕組みと環境がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員に周知させている。また定期的に外部である急変・事故研修に参加し、それを自施設内で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。訓練を行うだけでなく、事前にアンケートを用意し、何に気を付けておくべきか考え、行動に移せるようにしている。また地域の方にも災害時には協力をお願いしている。	施設内合同で年2回の避難訓練を実施している。ホーム単独では、年3回以上の訓練実施がある。事前アンケート実施、訓練後の研修実施と、高い意識の取組みがある。避難経路・避難方法・避難場所については、毎回職員意見を参考に、見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員とは顔なじみの関係を築きながらも、人生の先輩である入居者様の人格を尊重し、敬う気持ちで声掛け・対応に努めている。	認知症理解に関わる研修や勉強会で知識を深め、支援に反映させている。利用者が混乱しないように、どの職員も同対応が出来るように支援方法を統一し、利用者が不快な思いをしないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、本人様の意向を確認するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で、一日の大まかな流れはあるが、趣味や本人様お一人の時間を大切にしたいと考え、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の研修を行い、身だしなみの大切さを職員に周知させている。9時頃、蒸しタオルをお渡しし、顔・首回りを拭いていただく他、男性は髭剃りの時間を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずは施設厨房で準備しているため、調理工程はないが、汁物をよそったり、食器洗い・食器拭きなど家事仕事を職員と一緒に手伝いしていただいている。	調理は施設の厨房が賄い、ホームでは利用者と一緒に、ご飯と汁物の配膳を行っている。行事食の楽しみもあり、食が利用者の楽しみになるように配慮している。ホームで手作りおやつレクリエーションを行い、調理の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない方をチェック表にて時間でトータルが把握できるようにしている。又 管理栄養士が併設施設にいるため連携して栄養管理等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診歯科のDr/衛生士と連携して毎日の口腔マッサージ・仕上げ磨きを行って 口腔内の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを見極め リハビリパンツから布パンツへの移行ができた方が見える	トイレでの排泄を基本に支援している。利用者一人ひとりの状態と状況に合わせ、適切な支援方法を検討している。排泄パターンの把握で、利用者の羞恥心に配慮した、失敗のない排泄支援を目指し、声掛けや誘導等を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便体操や 腹部の確認等を行い その方に合ったお薬や・マッサージにて予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員好きな時間とはいかないなか 夜に職員増やし 夕食後の入浴を楽しんで頂いている。	毎日の入浴を支援し、清潔保持の観点から、週2回以上の入浴ができるように入浴管理を行っている。時間帯、入浴順、入浴時間等、できる限り希望に沿って支援している。併設特養と連携して、機械浴使用も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は大まかな時間はあるものの、その方々に合わせた時間にて対応している。生活習慣の把握に努め、夜間安眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員研修にて薬の大切さ、怖さを職員に周知させている。また薬情ファイルを管理し、何かあればすぐに確認できるようにしている。変化があれば往診医へ連絡し、対応をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ユニットでの他入居者様がたらとの交流も大切にしながら、お一人お一人の時間も楽しんでいただけるよう支援している。趣味の楽器や散歩の他、『聞きます、月間』にてお一人ずつお気持ちを伺い、実行に移せるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策をとりながら、できる範囲内で喫茶店や買い物など、外へ出る機会を作っている。またその際は、本人様の希望に添えるよう対応している。	コロナ禍で、以前ほど自由な外出は難しい状況の中、個別外出や買い物を支援している。駐車場でレクリエーション等、「天気の良い日は30分でも外に出る」の意識共有で、利用者の気晴らしや気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所にて管理させていただいているが、外へ出る機会があるときは、お会計を入居者様にさせていただくなど、実際にお財布をお渡しして見守り対応しながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みを許可しているため、ご家族や友人の方へ電話で話される機会もある。電話の使い方がわからない場合はお手伝いさせていただいている。個人宛に届いたはがき等は本人様へお渡しし、居室に飾るなどされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と一緒に共有空間のお掃除をし、清潔を保ちながら生活をしている。毎日気温・湿度等の測定を行い、快適に過ごしていただけるよう対応している。皆さんと一緒に季節感のある作品を作り上げ、共有空間に飾っている。	【コロナ禍で利用者がくつろぐ空間に滞在することは自粛した】 清潔感のある共有空間で、掃除は利用者と一緒に、居場所作りを支援している。作品の掲示も多くある。距離を置いた視察ではあったが、レクリエーションを楽しむ楽し気な様子があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の知れた入居者様同士でお話される場合は、それぞれのお部屋でお話されたり、時にはGHの詰所にて職員と一緒に話すこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、その後も、馴染みの物を持ってきていただき、ご自身の部屋に近づけるようご家族様にも協力いただいている。	【コロナ禍で、居室の様子をヒアリングした】 自室で一人の時間を楽しむ利用者もおられ、大正琴の演奏やテレビ鑑賞等、好きなことをしてもらう時間を作っている。馴染みの物品、趣味の物品を持ち込んでもらい、本人がくつろげる環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名札、トイレにはトイレとわかるよう表示をさせていただいている。安全に生活していただけるよう、生活導線における設備等には配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000415		
法人名	社会福祉法人 志楽園福祉会		
事業所名	グループホーム猿投の楽園		
所在地	愛知県豊田市加納町向井山9-1		
自己評価作成日	令和3年8月23日	評価結果市町村受理日	令和4年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2393000415-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2393000415-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お話好きな方が多い為 職員が架け橋になりお話を楽しんで頂いたり。口腔チェックを個別に実施し美味しく食べれることを推進している。また男性が3名いるなか 配慮をし楽しく共同生活ができるように男性も洗濯量や掃除に参加していただくことで協力体制が自然とできてきている。笑顔を絶えないユニットになっている。個々の時間も大切にしお部屋で家族様と電話したり 好きなテレビ番組を見たりしてもらっている。外に出て体操や歌など楽しんで頂く時間も多くとり室内ばかりではなく 健康的に季節を感じる生活してもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに理念を掲げ、毎朝礼時に唱和している。また理念に基づき業務を実践できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には参加できるようにしたい。交流館に特養との両面版のおたよりを置かせてもらい地域住民の方に自由に手に取ってもらえるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターの協力のもと地域の方がGHの様子や暮らしぶりを聞かれる機会が多くなり認知症のサポーター養成講座に参加も増えて着ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多職種の方からの意見者を参考に安全・安心の生活が送れるように頂いた言葉を職員間で共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困りごとをそのままにしないように市役所等に相談を管理者が執り行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、3か月に1回研修を実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修をもちろんのこと 職員間でも虐待行為が無いように声掛けし協力して防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	先日職員2名が研修に参加し学び 他の職員にも伝えることで権利擁護の理解や制度に関心をもってもらえるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様・利用者様の管理者が説明し、理解・納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見等入れてもらえるようにしている。運営にも反映するように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議棟にて意見等聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況・実績等把握し職員1人1人にあった環境等になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも少しずつ参加している。 また、毎月職員がそれぞれテーマを決め講師として内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊田市グループホーム分科会の施設の方と情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にしっかり要望等聞き、ご入居後も安心して過ごして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後にご家族様の要望等お聞きし、小さなことでも相談していただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様・利用者様の要望等から、必要とされるサービスを見極めて支援内容に組み込むように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないよう、一緒に生活を支えていけるように関係を築いて行けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と利用者様が良好な関係が維持できるよう、面会や電話等の機会を設けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないように面会等の要望にも協力している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係が良好に維持でき、孤立しないように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームの契約終了後も、相談支援していける関係造りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞きます月間を実施し、1人1人の希望をお聞きし担当職員と叶えていっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みのある暮らしかたを大切にして、毎日生活していただけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムを把握に努め、職員間で情報共有し統一した対応していけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、家族様の意見等お聞きし計画作成に反映するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に記入し職員間で情報共有し、必要に応じ計画見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の状況に応じて対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人1人の力が発揮できるように支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回往診医にかかっている。かかりつけ医がある方は家族様と一緒に行っていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医・併設事業所の看護師等と情報交換等し連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は管理者等が病院に伺い、担当医師や看護師から情報を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の在り方について、家族様の希望を聞いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は往診医に連絡し指示を仰いでいる。併設事業所看護師と連携が出来るようにもしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回施設全体で避難訓練を実施している。グループホームのみの避難訓練も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人が自己決定できるように心掛けている。選択しを狭めご考えてもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など決まった時間での支援内容もあるが、他の時間は利用者様のペースを大切にし支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様本人の好む身だしなみをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットでご飯を炊いたり、汁物をよそってもらったりしている。また食後は食器洗い等手伝ってくださっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人にあった食事形態で提供している。排泄・水分表を確認して水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをして行ってもらえるよう促している。昼食後は口腔チェックを行い状態把握に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録の記入にて排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩を実施し便秘にならないように努めている。また往診医と協力して下剤等を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の体調や気分に合わせてお声掛けさせてもらっている。また リラックスしてもらえるように入浴剤等を使用し気分転換を図っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝は「休みたい」と要望があれば居室にて休んでいただく。夜間も休めない日は職員と過ごし安心してもらえるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の研修を行い、職員には薬の理解をさせている。薬の変更時は申し送り等を活用し様子を記録に落としもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の分担や趣味の時間を作りまた披露する機会をも置けている。 また、畑の趣味がある方と畑仕事を行い。収穫したものをみんなで頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員が個々の思いを聞き 喫茶店や買い物に出かけている。 また家族様においしいお墓参りに連れていってもらおう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や美容院とうの支払いをご自分で払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯をお持ちの方はいつでの話せる環境を作っている。また施設に家族様から連絡あればご本人様に伝え 施設電話でお話を楽しんでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を一緒に活けたり・季節の塗り絵を飾り話題作りをしている。また個人個人の写真を掲載して「あんなことしたね」とコミュニケーションを図っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士 居室でお話をしたり 交流スペースを活用しながら居場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やタンス等を持ち込みベッドの位置も相談しながら落ち着いた環境を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の扉に名前等を貼り見てわかり ご自分で迷わずに行けるよう工夫している。		